

薩摩青雲丸

第2号
鹿児島水産高等学校
薩摩青雲丸
指導教官

試練の先に将来の夢がある

初の外洋実習、本科生は船酔いと闘い

十一月十一日正午現在、船位北緯三十三度零分、東経百三十四度十分、針路六十五度、四国沖を順調に北上中です。明後日十三日午前九時に予定通り神奈川に入港します。

沿岸航海1

十一月五日に枕崎を出港、甌島沖にて折り返したのち太平洋沿岸を北上、伊勢湾沖で折り返し八日に別府へ入港しました。太平洋沿岸では、低気圧の影響もあり航行中の本船の動揺も大きくなりました。想像以上に



本船と航過中の実習船「えひめ丸」
十一月五日錦江湾洋上にて

互いの安航を祈る

実習船「えひめ丸」との遭遇

十一月四日、錨泊中の本船隣に愛媛県立宇和島水産高校の五代目となる実習船「えひめ丸」が錨泊。五代目えひめ丸は平成十四年に建造された本船と同じ年の実習船。四代目えひめ丸は、平成十三年二月十日、ハワイ沖でアメリカの原子力潜水艦に衝突され沈没した。実習生四名、指導教官二名、乗組員三名の計九名の尊い命が奪われた。同じ志を持つ者として忘れてはならない事故。五日早朝、両船同時に錨を揚げ、すれ違う際には汽笛を交換し、互いの実習生達が懸命に手を振り合った。感慨深いものがあつた。



船橋当直中に船酔いに耐え切れず、袋に顔をうずめたまま床にうずくまる本科生

辛い船酔いや、思うように携帯の電波も入らない環境に「早く帰りたい...」思わずポツリと本音を漏らす生徒も。それでも当直・学習・作業とやるべきことは変わりません。船乗りになるといふ道を選んだ以上、避けて通れない試練です。別府観光



停泊中の「さんふらわあ」横にて十一月九日

港に接岸後は給水作業を行い、本船新型コロナウイルス感染防止ガイドラインに沿った短時間の上陸が許可されました。実習生にとつては、東の間の休養となつたようです。本船の前方には大型旅客船「さんふらわあ」が停泊中。港湾学習の一環として間近で見学させて頂きました。

沿岸航海2

十一月十日午前九時、本船は予定通り別府を後にし、神奈川県三崎港へ向けて針路をとりました。出港後は、太平洋沿岸のうねりが大きく時より足元がふらつくような横揺れもあります。毎日の実習は、当直班・食当班・作業／学習班の三班でローテーションが組まれています。一日四時間の班別活動に加えて船内講義や学習時間が設けられており、規則正しい生活の中で船員養成教育が実施されています。

シリーズ 若き航海士の素顔

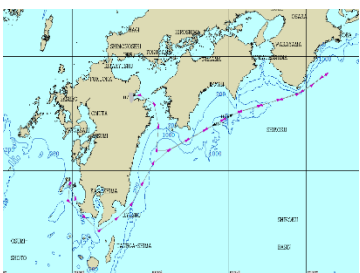


本科生に講義中の善原航海士十一月十一日

三等航海士：善原武士(二十六歳)▽趣味は釣りと温泉
▽平成二十八年本校専攻科修了後、外航船の航海士を経て現在に至る。モットーは「常に楽しく前向きに」
▽実習中は本科生への講義を毎日実施しており、分かりやすい教え方には定評がある。▽明るい性格で実習生ともすぐに打ち解け人気がある。▽禁煙に成功したが、体重は増加の一途をたどっている▽喜界島出身

指導教官の目

本科生は船酔いにも徐々に慣れはじめ、日々の講義や当直業務でも自ら学ぼうとする姿が見られます。日増しに寒くなる中、実習生一同変わりなく皆元気です。



枕崎出港から別府入港までの航跡